

にちにちそう  
日々草

過日、「日々草」の苗三本我が家に届きたり。今年に入り、新型コロナウイルスの世界規模にての流行に、日本中目に見えぬ脅威にさらされ自粛生活強いられたり。最低限生活に必要なとせらるる食料品は、スーパー・マーケット、ドラッグ・ストアの販売に頼るのみなり。学校も図書館もレストランも食堂も皆休業せり。いはんや、華道高野山のお花の稽古もここ数ヶ月前より休講となれり。いけばなのお稽古場が「密」なるがゆゑと言ふ。一つ場所に<sup>あまた</sup>数多の人々の集まる事はウイルス感染に繋がると言ふ。人々は自粛して日々の生活は冬ごもり状態となり、我が日常も家に籠もる修行僧のごとくになりぬ。朝一番に神棚に水を供へ柏手を打ち、佛壇にお茶を供へ、線香の香る中、経をお唱へす。朝餉・昼餉・夕餉三食の支度と室内の掃除を行ひ外出は殆どせざれば、週一回生活協共同組合より届く食料品が我が家の食生活を支ふることとなりたり。

その生協の注文書に「日々草の苗」見つけたり。お花に触ること能はざる毎日になりたれば、日常生活の寂しさの慰みにならんと思ひて買ひ求むることにしたるものなり。早速少し大きめの白き鉢に腐葉土入れ、日々草の苗植ゑ替へ、その鉢をば南向きの窓際に置き、毎朝水を注ぎたれば、まことにささやかなる行為なれど、今の我に嬉しき気持ちを与ふるものとなれり。名前の如く、日に日に

赤き小さな花の一輪二輪と咲き広がる様を見ること誠に嬉しきことなりき。

而して、このウイルス流行克服するには如何にすべきか。安倍首相ならびに東京都知事は連日テレビに姿をあらはし、「国民の皆さん、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、三密を避けませう」と訴ふれば、国民一丸となりて密閉・密集・密接の三密を避けねばなるまじ。この憎き目に見えぬウイルスに感染せば、発熱、肺炎、重症化して、命を落とす人も多数あり。体を害することのみならず、他人を見ればそのことのみにて保菌者の如くに見え、避けんとするなり。わが身が感染者かと恐れ他人に会ふことに神経質になるなど、人間の気持ちをも損なひ壊すにまで至るなり。

私の知りたる三密とはお大師様（弘法大師）の真言密教の大切なる教へなり。口に真言、手に印を結び、心に佛を観想し自らの佛性に気付く為の修行なり。

されど昨今の三密とは、口にはマスク、手には消毒液、心の中には（他者を拒むことなく）自身の言動を戒むる意識を保つことなりや。グローバル社会の現代は人も物を即座に国境を越え複雑に往来することとなりたり。良きにせよ悪しきにせよ、その速度と範囲は予測不可能なり。悲しきかな、恐ろしきかな、ごほん咳をするのみにて他人に迷惑をかけてしまふことあるこの現実。本来人は

人と繋がり助け合ひ、その御縁に感謝して生きるものなりと理解しをれど、この新型コロナウイルス蔓延より、何が学ばるるかと考へさせられたり。自分自身の言動を律することは自分自身を助くることはもとより、他の人々をも救ふことになるなり。他人への気遣ひは翻へりて己が助けらるることなり。自利利他行ならざるや。

これから先の二次三次感染の広がらんを抑へんが為、人と人の距離を保つソーシャル・ディスタンスが指導されたり。人と人の距離の取り方とは両手を広げたる距離なりと言ふ。人間とは集まり、触れ合ひ、共感しあふが本来なり。されど新しき生活の仕方の提案され、買ひ物はパソコンにて注文、支払ひは電子マネー、果てはバーチャル飲み会なるものまで現るる有り様なり。我はコンピューターの操作が苦手なれば、電子マネーも使へず、便利なるアプリケーションのダウンロードも出来ず、新しき生活の仕方から置き去りにさるる感多々あり。

然るに、人との接触を極力抑へてバーチャルなる世界に本来の人生の快樂を如何にして見いださるるであらうか。生活様式は変はれども、我ら心の置き所はお大師様の御教へに沿ひたきものなり。この試練を乗り越えたる暁には、我々が価値観の多様性、個々の違ひを認め合ふ寛容なる世界を作り上げ、より大きな知恵と力を獲得できむことを固く信じたく思ふなり。

「願はくはこの功德をもって あまねく一切に及ぼし われらと衆生とみなと  
もに 佛道を成ぜん（ウイルスを克服せん）」

我が結婚生活も四十五年になりしが、連続して数ヶ月間夫と三食を共に食し、  
日がな一日一緒に過ごすこと初めてなり。「一緒に居られて嬉し」と言はんには  
余りに臺の立ちすぎし感あれど、人生の終盤、摩訶不思議なる夫婦といふ関係の、  
窓辺に咲く日々草のやうに淡々と過ごせられんこと願ふのみなり。